

秋田大学

国際交流センターニュース 第11号

Akita University International Exchange Center News

- ・協定校広がる …………… (1)
- ・留学生関係行事 …………… (2)
- ・派遣留学関係 …………… (3)
- ・センター長挨拶 …………… (4)
- ・センターから …………… (4)

**秋田大学は世界各国の大学との研究・学生交流に力を入れています。
新たに協定を締結した大学や交流状況についてご紹介します。**

チュラロンコン大学

チュラロンコン大学（タイ・バンコク）を2012年11月29日訪問し、秋田大学の吉村学長が大学間協定に関する協定書の署名・交換を行いました。チュラロンコン大学は1917年にチュラロンコン王（ラマ5世）に設立された由緒ある歴史を持ち、タイ国を代表する教育機関として高く評価されています。総合大学として19の学部を持つことから、教育・医学・工学それぞれの分野で秋田大学との活発な交流が期待できます。

今回の協定締結には、長年共同研究を続けられた高島勲名誉教授の存在が不可欠でした。共同研究の発展と、このような活動が生み出されていくことが望めます。



(滝川敏生 TAKIGAWA Toshiki : 国際課)

ルレオ工科大学訪問

スウェーデンに2012年12月10日～18日出張し、ルレオ工科大学およびポリーデン社（ヨーロッパで有数の鉱山会社）を、秋田大学国際資源学研究教育センター水田センター長、高橋国際交流推進役とともに訪問しました。これまで秋田県の黒鉱地域の研究で本学と交流のあったポリーデン社探鉱部長のロッド・アレン氏は、ルレオ工科大学の連携教授もされており、今回の訪問で様々な便宜を図っていただきました。戦略的鉱物資源（レアメタル）の確保など資源セキュリティの観点から、スウェーデン政府はルレオ工科大学を資源学関連分野の研究教育の拠点に指定しています。本学の国際資源学部設置と、博士課程リーディングプログラム「レアメタル等資源ニューフロンティアリーダー養成プログラム」遂行にあたり、ルレオ工科大学、ポリーデン社との連携、協力を進めるための協議を行ない、ルレオ工科大学とは学術交流協定締結へむけた手続きを進めています。



(今井 亮 IMAI Akira : 国際交流センター副センター長)

フィリピン大学マニラ校

医学部系の学部を配するフィリピン大学マニラ校と2月4日、包括協定を結びました。協定式の後、国際交流センターの榎本克彦センター長（医学系研究科教授）が「肝臓がんの幹細胞」をテーマに講演。次いで守時由起講師（附属病院）が秋田大学で導入したシミュレーションセンターについて、医学・教育的な効果も含めて説明しました。

医師の技術向上のため、フィリピンでも2016年为目标にシミュレーションセンターを設置する計画が進んでいます。聴講した医学生・教授陣の関心は高く、秋田大学への協力要請がありました。近く、マニラ校の外科医が秋田大学を訪問する予定です。

また、すでに昨年に協定を結んでいるフィリピン大学デリマン校も訪問。今井亮副センター長（工学資源学研究科教授）がリーディング大学院や新設する国際資源学部（仮称）について説明したほか、共同研究の打ち合わせを進めました。

厳寒の秋田と南国フィリピン。訪問時の気温差は40度近くでした。



(高橋康弘 TAKAHASHI Yasuhiro : 国際課長)

モンゴル民族大学一行来学

モンゴル民族大学学長以下5名が1月15日、秋田大学を訪問しました。1998年に設立されたモンゴルの私立大学の中では2番目の規模を誇る大学で、近年、モンゴルでニーズの高い鉱山、建築分野の教育に力を入れています。昨年10月、ウランバートル市で開催された日本留学フェアに秋田大学が参加した際に、日本の大学との学術交流を担当する同大学国際学部の伊藤新教授から直接のコンタクトがあり、この度の訪問につながりました。

この訪問を受け、2月下旬には、国際交流センターの今井副センター長がモンゴル民族大学を訪れ、教育、研究の状況を視察しました。

秋田大学が優先的な協力対象国と位置付けるモンゴルでは、既に科学技術大学、国立教育大学など3大学と学術協定を締結しており、モンゴル民族大学は、4つ目の大学になりますが、それぞれの大学とどのように交流を進めていくかの戦略が求められています。



(高橋嘉行 TAKAHASHI Yoshiyuki : 国際交流推進役)

第三の故郷を見つける農家民泊

県内高等教育機関の留学生とともに、今年も仙北市西木町で農家民泊事業を行いました（秋田地域留学生等交流推進会議主催、「公益財団法人中島記念国際交流財団助成」日本学生支援機構実施事業）。一度目は、11月3日・4日に8軒の農家に分かれて農作業と農家民泊を体験し、二度目は、12月1日に餅つきなどの料理作りとプレゼント贈呈を行いました。

例年より2週間ほど遅れての開催となり、11月の農業体験ツアー時にはあいにく一日中雨模様。とはいえ、例えば私の宿泊した里の灯では、この日のためにきりたんぼを焼くお手製の機具まで用意されており、みんなで作ったきりたんぼをあぶりながら食べることができました。各農家のみなさんが留学生の訪れを心から楽しみにして、雨ならこうしよう、晴れ間が見えたらこうしよう、工夫をこらしてくださっているのだと改めて認識しました。農家民泊については「専任教員からひとこと」にも書きましたので、ご参照ください。



(牲川波都季 SEGAWA Hazuki : 国際交流センター)

Mochitsuki

～地域の方々と共に伝統行事体験～



Although I came to Akita for academics, what I value most of all is the chance to experience Japanese culture. I was very glad, then, to get to see and feel some of the history and heart of Japan through mochitsuki. In a fast-paced time when so much of what we have comes so conveniently, the pounding of rice into sweets

reminds us of a simpler era where one had to work hard for the things that we now take for granted. In this sense, it reminds me of churning butter, but mochitsuki also has an element of teamwork. With one person pounding the rice and the other turning it and keeping it wet, a pair of people doing mochitsuki must stay connected to each other. If the one pounding is too fast or the one turning is too slow, there is the risk of a hand getting hit with a hammer. It is only by blending with each other's movements that the work can be done quickly. This concept of blending seems to be a powerful idea throughout most aspects of Japanese life, and it's fascinating to see that harmony embodied in mochitsuki. Whether it's traditional home ceremonies or matsuri, I hope to experience as many of these pieces of old culture as I can.

(Abraham Michael Levin : 教育文化学部交換留学生)



北東北3大学学生合同合宿研修会

秋田、岩手、弘前の北東北国立3大学の留学生と日本人学生が、合同合宿研修を通じてお互いの交流を深め、多文化的視点から物事を見る経験をするを目的として毎年実施しています。今年度は秋田を当番校として計73名の学生が参加しました。

初日の前半は、学生主導でダンスやジェスチャーゲームなどのアイスブレイクを行って交流を深めました。体育館を利用し、身体を動かすゲームを行い、心地よい汗を流しました。

初日後半と2日目には、日本の文化や社会を題材にした写真を利用した「紙芝居作り」に挑戦しました。16チームに分かれての作業でしたが、英語と日本語を使ってコミュニケーションをし、創意工夫を凝らし完成させた作品は、素晴らしいものばかりでした。



(宮本律子 MIYAMOTO Ritsuko : 教育文化学部)

留学生スキー合宿

アンニョンハセヨ。私を含めた留学生たちは1月26日に日帰りですキーに行ってきました。韓国にもスキー場がたくさんありますが、行ったことがなく、初スキーを日本で出来るということが私には意味がありました。しかし、当日は雪がいつぱい降っていて、スキーを楽しむ日としてよい日とは言えませんでした。スキー場に到着するときまでは特別な感情はなかったのですが、建物の後ろに広がった雪の山を見て、「あ、私は今スキー場にいるんだ。」とわくわくしました。スキーは思ったより重かったです。基本的説明から習いましたが、とても覚えやすかったです。先生の説明がわかりやすかったし、インラインスケートとコツが同じだったからです。幼い頃インラインをよく楽しんでたことが役に立ちました。「スキーがこんなに覚えやすいなら、ボードはどうなんだろう」と考えもしました。先生は「ソン君ならきっとボードのほうもすぐ出来ると思います。」とおっしゃってください嬉しくて自信になりました。

スキーが終わった後、その隣にある温泉に行き疲れた体を解放しました。この日は日本での一番の思い出になりました。このスキー合宿は日本人の友達のおかげで知り、申し込んだのです。今、その友達にとても感謝しています。

(ソン・ヒウォン : 教育文化学部交換留学生)



～ Potluck Luncheon at the Multicultural Lounge ～

「留学生とランチ」を11月28日の昼休み、多文化交流ラウンジで開催しました。国際交流センターと英語自立学習支援システムThe ALL Roomsの共同企画として、ポットラックという料理持寄り形式のランチタイムとなりました。留学生、日本人学生それぞれ約10名が参加し、得意料理を持ち寄りました。日本の筑前煮や、オーストラリアのベジマイトを使ったサンドイッチなど、各国の特色のある料理を味わいながら、おしゃべりを楽しみました。このイベントが学生の言語学習への意欲を引き出し、世界へ興味を持つきっかけとなっていれば嬉しいです。

(井出 花 IDE Hana : 教育文化学部国際言語文化課程2年)



ワールドワイドに
学生の味が集合！

秋田大学海外留学説明会

2012年12月17日に、秋田大学海外留学説明会を開催しました。説明会の中で、参加者が一番熱心に耳を傾けていたのは、学生による留学報告でした。中国の蘭州大学に留学した松田夕佳さんは、留学経験を活かした就職活動について、アメリカのセント・クラウド大学に留学した中山慶美さんは、留学生活や英語の勉強方法について報告してくれました。交換留学生のジェレミーバットさんは、オーストラリアの生活や母校のグリフィス大学の概要を説明してくれました。

国際交流センターでは、今後も、海外留学の機会を多くの秋大生に提供できるよう環境整備に取り組んでいきたいと考えています。

(市嶋典子 ICHISHIMA Noriko : 国際交流センター)

留学生卒業記念パーティ開催される

秋田大学へ通う留学生の卒業・修了を祝し、1月31日に国際交流センター主催留学生卒業記念パーティーを秋田大学生協新食堂ホールで開催しました。留学生の他、県内国際交流団体、学内関係者の約100名が出席しました。

時期を早めて行ったことで、プログラム修了時期が早い交換留学生も含め例年の倍の人数が集まり、アットホームかつ華やかなパーティーとなりました。卒業生からの一言では、秋田で過ごした感想やお礼のことばをそれぞれ個性的に発表し、大きな盛り上がりを見せました。

秋田で過ごす時間を、最後まで仲間とともに楽しみ、新たなスタートを迎えてほしいと願っています。

(国際課)



ノボシビルスクでの進学説明会

ロシア・シベリア地方の中心的都市であるノボシビルスクにて開催された日露大学合同説明会に参加してきました。日本からは資料のみを含めて9大学が参加し、多くの現地学生が集まりました。1日目は有数の名門校であるノボシビルスク大学にて説明会、2日目はシベリア・北海道文化センターにてプレゼンテーションと説明会を実施しました。本学には両日合わせて学生75名の訪問がありました。訪れた学生の半数以上が簡単な日本語を理解し、名簿にはカタカナで名前を記入していました。日本を含めたアジア言語文化に対する関心の高さに驚かされました。

(加賀屋聡一 KAGAYA Soichi : 国際課)

～ Päivää! フィンランドから留学報告～

フィンランドのケミ・トルニオ応用科学大学に交換留学生として在学しています。この大学はケミとトルニオという二つの街にキャンパスを持ち、私はトルニオでITビジネスについて学んでいます。ここトルニオはスウェーデンとの国境に位置しているため、意外な体験をすることがあります。例えばフィンランドとスウェーデンの間には一時間の時差があるため、スウェーデンのスーパー等で買い物をしている際、ふと時計を見ると一時間遅れて表示されています。また冬は冷え込みが厳しく、-20℃まで下がる日も珍しくありません。外を歩いていると鼻水が凍ります。

大学生活では言葉の面で苦労しました。講義は当然英語で行われるため、慣れるまで多少の苦しい思いもしましたが、これも価値のある時間でした。幸い友人に恵まれ、言葉の不自由さはありませんが、楽しく充実した時間を過ごしています。

(江村拓郎 EMURA Takuro : 工学資源学研究所土木環境工学専攻博士前期課程2年)



ストックホルム市庁舎



ロヴァニエミ市街

国際交流センター長退任の挨拶

3年前センター長に任命された時、吉村学長から秋田大学の国際戦略の策定を依頼されました。大学が組織体として活動する以上、当然のことながら理念や目標があり、秋田大学は3つの基本理念を掲げています。そこには地域貢献とともに世界に羽ばたき国際貢献する大学でありたいという思いが込められて



います。実現していくためにはしっかりと戦略が必要となります。当時のセンター教職員の英知を集めて平成23年春には国際戦略を発表することができました。現在の国際交流センターは戦略に沿って活動しており、その延長線上で、留学生200人目標達成や海外拠点形成が可能になったものと考えています。私にとって、国際戦略はセンター長としての出発点であり到達点でもありました。

これからは、時代に即してさらにレベルアップした国際戦略を構想し、新学部設置に対応していく必要があると思っております。秋田大学は決して大きな大学ではありませんが、小粒でも輝きを放つダイヤモンドの様に国際的にも魅力のある大学を目指してほしいと思います。

この3月31日をもって定年退職となります。やり残したこともいろいろとありますが、キャンパス内で留学生が



医学部での最終講義

楽しそうに談笑している姿を見るのは私の喜びでした。

出会い、お世話になった皆様に心より感謝申し上げます。

(榎本克彦 ENOMOTO Katsuhiko : 国際交流センター長)

◆秋田大学附属中学生職場体験学習

国際課の仕事って？秋田大学附属中学1年生6名が12月4日から3日間、職場体験にやってきました。留学生寮についてクイズ形式で学んだ後、清掃業務・広報誌発送作業体験。国際資源学教育研究センター・企画広報課・地域創生課教職員にインタビュー。留学生とのランチは、緊張しつつも互いに交流を楽しみました。

◆国立大学法人等国際企画担当責任者連絡協議会

標題の全国会議が12月3日に秋田大学と岩手大学共催で行われました。協議会には、全国の国立大学や研究機関等から国際企画に携わる理事等職員200名が参加。当センター長の榎本克彦副学長（国際戦略担当）の開会挨拶を皮切りに、文部科学省から世界的な動向や国内における高等教育国際化推進目標等説明、東京大学から秋入学についての講演、早稲田大学から職員育成をテーマにした講演が行われ、初の地方開催は成功裏に終了しました。

◆北東北国立3大学国際交流実務担当者情報交換会

弘前大学、岩手大学、秋田大学の国際交流実務担当者が12月7日に秋田大学に集まり、情報交換会を開催しました。各大学の海外拠点の設置・活用状況や国際業務を担う職員育成等について話しあうとともに、テレビ会議システムによる本情報交換会開催の検討開始など、より合理的かつ密な情報交換を目指すことで合意しました。

◆平成24年度秋田地域留学生等交流推進会議

秋田県内における留学生の受入れや交流活動を含めた国際交流の推進を図るために組織されており、今年度の国際事業報告を交えつつ来年度の会議運営について話し合いました。留学生との懇親会では、吉村昇議長（秋田大学長）の挨拶の後、県内参加留学生全員（国際教養大学・ノースアジア大学・秋田県立大学・秋田工業高等専門学校・秋田大学所属）がスピーチ。始終和やかな雰囲気の中行われました。

担当教員からひとこと

この2月に『農家に学ぶ留学生受入の思想と方法——秋田県仙北市西木町のグリーン・ツーリズム事例集』という小冊子を作成しました。これは、秋田県仙北市西木町でグリーン・ツーリズムを営む農家7軒を対象とした、聞き取り調査の成果です（「平成24年度笹川科学研究助成・実践研究部門」助成を得て実施）。異文化コミュニケーション能力とは、外国人や外国語についての知識や経験に基づき、異文化を相対的に見る力を指すと言われます。しかし文化・言語の知識・経験をもつことが、自分にとって異質な他者とコミュニケーションするための条件なのでしょうか。西木町のグリーン・ツーリズム運営農家の方々の元に4年間通ってみると、この知識や経験は必須ではなく、もっと別なものが大切という印象が確信に変わってきました。ことばとコミュニティと人との関係を幅広く考えてみたい。秋田での出会いが私の研究課題を広げてくれます。

(牲川波都季 SEGAWA Hazuki : 国際交流センター)

■国際交流協定校情報

大学間協定（合計21ヶ国・地域：43大学等） 部局間協定（合計8ヶ国・地域：15学部等）

(2013年3月15日現在)

■秋田大学の留学生数

合計211名 学部生：106名 大学院生：43名 交換留学生・研究生等：62名

(2012年10月1日現在)